

JAPIC NEWS

財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC)

2004年12月号 (No.248)

目 次

《巻頭言》

- 患者自身が選択する医療 2
小雀 浩司 (持田製薬株式会社 顧問)

《 . 知っておきたい医薬品情報の新しい活用法 - 》

- MRに求められる医薬品情報 - 5
小久保 光昭 ((財)医薬情報担当者教育センター 企画部長)

- 《お知らせ》 10
《トピックス》 14
《図書館だより No.174》 18
《月間のうごき》 21
《11月の情報提供一覧》 22

《巻頭言》



患者自身が選択する医療

持田製薬株式会社 顧問

小雀 浩司 (Kosuzume Hiroshi)

(JAPIC 評議員)

我が家には 16 歳 3 ヶ月になる老猫がいる。腹のたるみを除けば、見た目は 10 年前とさほど変わっていないので、最近は専ら本名「ムツゴロウ」より「若造り」と呼ばれる事が多く本人？も結構気に入っている様にも見える。見掛けは若い「若造り」君もさすがに寄る年波には勝てないと見え、ここ数年毎に行動がスローモーになり、嘗ては駆け上ったり、駆け下りたりしていた階段も一段一段確かめながら上り下りするようになり、何度か失敗したせいかタンスや本棚の上など高い所には登ろうともしなくなった。以前は比較的健康で病気も余りしなかったが、ここ数年は動物病院のお世話になる機会も増え、薬を飲ませる事も多くなった。

犬は飼い主の指示には従順で、錠剤やカプセル剤を飲ませるのも比較的容易だが、飼い主と雖も本質的には信用しない猫に錠剤やカプセル剤を飲ませるのは大変で、引っかかれたり噛まれたり悪戦苦闘する羽目となる。飼い主は獣医師から多少の説明は受ける事が出来るので処方された薬に関する多少の情報は有るものの、飲まされる猫には何の情報もなく、食べ物でない異物を無理やり飲まされるのだから不安と、恐怖から必死に抵抗するのは寧ろ当然と言えるかも知れない。

苦労の末飲ませた薬の効き目が一向に現れなかったり、副作用ではないかと思われる症状が現れたりすれば飼い主も大いに不安になる。処方された薬の効果や副作用についての情報が無い事がいかに不安を掻き立てるか実感できる瞬間である。

一般に獣医師には医師ほどインフォームドコンセントの意識はなく、薬剤師の介在もないため処方薬についての十分な情報が与えられる事は非常に少ないように思う。一般向けに公開されている動物薬情報から処方薬の有効性・安全性（副作用）に関する情報が得られないかとかろうじて PTP シートから読み取れる商品名を頼りに情報検索を試みしてみると、日本動物医薬品協会、東京大学大学院 獣医薬理学教室の HP や農水省動物医薬品検査所の動物用医薬品データベース、動物医薬品協同組合の動物医薬品副作用等情報集等に公開情報があり、代表的な薬で一般名が解れば何とか情報にたどり着けるが商品名のみから必要な情報を得る事は専門外の人間には相当に困難である。

一方、 magari なりに製薬企業に長い間身を置いていると人体用医薬品であれば一般名、商品名、メーカー等何か一つ情報があれば必要な情報を引き出すのにさほど苦労は無い。

刊行物であれば JAPIC 発行の「医療薬日本医薬品集」等多数の刊行物があり、Web なら JAPIC の各種データベースや医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供 HP 等から詳細且つ最新の医薬情報を引き出す事が出来る。余りにも手軽で便利なサービスが整っているため、医薬情報のありがたみを個人の感覚としては実感しにくくなっている（勿論業務上は医薬情報の価値を十分認識しているが）のではないかと思うほどである。しかしながら専門外の一般生活者がこれらの情報を自由に引き出し、利用しきれぬかどうかを考えると幾つかの疑問に行き当たる。

JAPIC の各種サービスや医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供 HP など信頼できる情報は医療従事者向けに作成された文書情報（添付文書や学術論文など）をベースとしたもので、一部（医薬品医療機器情報提供 HP など）は一般向けにも公開されているものの元々患者や一般生活者向けのものではないため専門外の人には難解である。

一方、一般生活者向けに、一見わかり易く書かれた刊行物や Web は近年著しく増加しており、容易に入手できるが、これらの情報の中には不適切な表現や偏った情報も多く、患者を誤った方向に誘導しかねないとの危惧を抱かせる。一般生活者から見ても信頼できそうな情報（製薬元や公的機関の公表情報）は難解で理解できず、一見わかり易い情報にはもう一つ信頼が置けないため見方によっては有り余るほどの情報が有りながら、患者や一般生活者の情報ニーズを満たしていない現状がある様に思われる。

本来、医療用医薬品の効果や副作用に関する情報は医師、薬剤師等医療提供者から患者（医療消費者）に医薬品と共に提供されるべきものであり、これら医療提供者への十分な情報提供が重要である事は言うまでもない（この点における JAPIC の貢献は高く評価している）がそれだけでは医療消費者たる患者あるいは一般生活者の情報ニーズを満たす事が出来ず、結果として医薬品が適正に使用されない可能性も考慮すべきではないかと思う。

製薬協が一昨年に実施した生活者意識調査でも、一般生活者にも容易に理解でき且つ信頼できる医薬情報（特に副作用情報）を求める社会的ニーズは益々増加しており、医薬品の適正使用を推進する上でも患者あるいは一般生活者への医薬情報提供に関する新たな対応が求められている。この様な状況を生み出した背景には、医療用医薬品の広告が医療関係者以外は薬事法で禁止されているため、添付文書の一般への公開や企業から患者への直接的な情報提供は薬事法違反に問われるのではないかと、と言う製薬企業の危惧があった事が大きな要因の一つであろうと思われる。

しかしながら昨年、厚生労働省は添付文書の一般向け公開に違法性はないとの判断を示し、現在は患者・国民に対する医薬情報提供の推進を目的として日本薬剤師研修センターの久保鈴子事業部長が主任研究者を務める厚生労働科学研究班が医薬品の効能・効果や副作用等をわかり易く表現した「患者向け説明文書（Web 版）」の作成に取り組んでいる。同研究班は今年度中の完成を目指しており、完成した文書は医薬品医療機器総合機構が HP 上で患者や国民向けに医薬品情報を提供する際に参考にしてもらう方針とされている。

「施される医療」から「患者自身が選択する医療」への転換が社会の流れであり今後も変わらないとするなら、医薬品の適正使用をより確実なものとするためには医療従事者への情報提供に加え、患者あるいは一般生活者への適切な情報提供がより一層重みを増す事となる。製薬企業は勿論の事、'Patient Safety' をスローガンとして掲げる JAPIC にも是非とも検討頂きたい課題の一つと思っている。



小雀家の愛猫「ムツゴロウ君」

=====
【お詫びと訂正】

「JAPIC NEWS No.247(2004年11月号発行) <知っておきたい薬物療法の親展開 - 抗うつ薬> 6 ページの表 2、9 ページの表 4 に誤りがありました。関係する方々には大変ご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げここに訂正させていただきます。

< 誤 >

< 正 >

「表 2 / SSNI 表 4 / SSRI」

「表 2 / SNRI 表 4 / SNRI」

《 . 知っておきたい医薬品情報の新しい活用法 - 》

- MRに求められる医薬品情報 -

(財) 医薬情報担当者教育センター

企画部長 小久保 光昭

(Kokubo Mitsuaki)

はじめに

MRが医療機関を訪問し効果的な情報活動を実現するためには、周到に準備された医薬情報とトレーニングされた対話スキルが必要とされる。しかし、それだけでは必ずしも十分とは言えない。MRは、常日頃から医療機関、医薬関係者などを取り巻く環境の変化や状況、ニーズなどを十分に理解、把握した上で行動する必要がある。以下、医薬関係者が置かれている最近の状況について考察し、MRが必要とされる情報活動について考えを述べる。

1. 最近の医療および医薬品を取り巻く環境の変化

少子高齢化社会の急速な到来による社会保障制度の見直し、パブル破綻以降長引いた経済不況による財政の逼迫、マスコミを賑わす医療事故などに対する国民の厳しい批判の目などを背景に、近年、医療を取り巻く環境は大きく変化してきている。

行政主導による医療の効率化を中心とした医療費抑制策の推進に拍車がかかる一方、医療安全の確保やインフォームド・コンセント等を重視した患者中心の医療など、医療従事者や医療機関には厳しい対応が迫られている。

近年の急速な科学技術の進歩は、国民に疾病の治療に対する期待をますます高めさせるようになり、また、権利意識の芽生えは、患者本人が医療へ参加することの意識を高めさせ、さらに医療の透明性や情報開示の要求、そして医療機関を選択するなど医療に対しても消費者としての行動を強めている。

このような環境の下、医薬関係者（医師、薬剤師等）は、診療活動の中で重要な位置づけにある薬物治療を行うにあたって医薬品の適正使用を確保するため、相互に連携して提供された情報の活用を図るとともに、自らも情報の収集、検討、利用に努めることが求められている（薬事法第77条の3の3）。

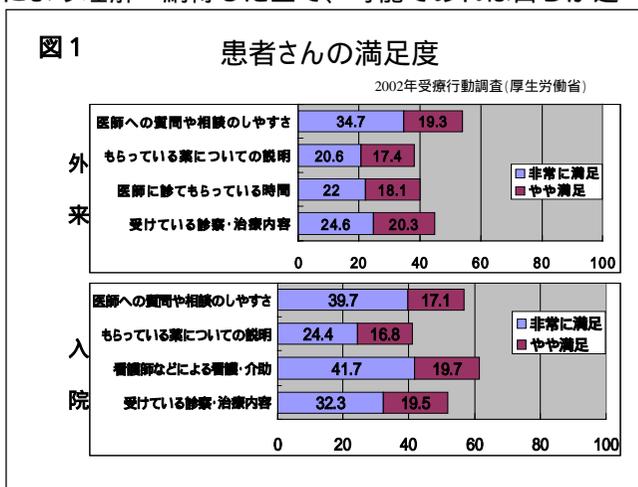
また、平成14年の薬事法改正により、医薬関係者等は医薬品等の副作用等を知った場合において、保健衛生上の危害の発生を防止するため必要があると認めるときは、その旨を厚生労働大臣に報告することが義務づけられた（薬事法第77条の4の2第2項）。

医薬関係者は、患者中心（患者満足）の医療を実現するために、従来にも増して医薬品の適正使用やインフォームド・コンセント、服薬指導などに必要な情報の収集に努める必要が生じてきている。

2. 医療における患者の満足度

厚生労働省が2002年に実施した「受療行動調査」によると、「医師への質問や相談のしやすさ」や「受けている診察・治療内容」に比べ、「もらっている薬についての説明」は外来、入院ともに患者の満足度が低いことが明らかになっている（図1）。

患者は、（インフォームド・コンセントにより理解・納得した上で、可能であれば自らが選択した結果で）検査、治療等に関しては医療従事者に任せざるを得ないが、薬については、処方され受取った後は、服用方法、保存方法、服用にあたっての注意事項など、安全の面からきめ細かく自分自身で管理していかなければならない。したがって、患者は薬に関して十分理解、納得できる説明を必要としており、説明に対する期待と現実の差が上記のような調査結果になって現れたと考えられる。



3. 患者が聞きたい薬に関する情報

患者は、処方される薬について以下のような説明を求めていると考えてよい。

- 自分の疾病の治療に、なぜこの薬が処方されるのかその理由（自分にとって最適であるか、他に選択肢はないか）
- 期待される効果と予想される副作用
- 服用にあたっての留意点
- 他の薬との相互作用
- 薬の保管に関する注意事項
- 何か異常を感じたときの対処方法 など

医師は、インフォームド・コンセントにあたって、このような患者の求めに応じなければ患者の満足は得られない。仮に院外処方薬を渡す場合であっても、患者は医師から直接説明を受け、理解・納得したい（特に と に関しては）と考えているであろうことは容易に推察できる。

医師が患者の理解・納得を得るためには、最新の治療ガイドラインや科学的根拠(エビデンス)に基づいた治療方針を示す必要があり、患者自身に治療法や予後などについて選択を求める場合にあっては、複数の選択肢を示し理解・納得してもらう必要がある。

医師は、多忙を極める日常診療の中で、より多くの医療、医薬品情報などの収集が欠かせなくなってきていると言えよう。

4 . 効果的、効率的な医薬品情報の入手手段

医薬関係者が医薬品情報を入手する経路は、インターネットを活用する機会が増えている現在であってもMRからが最も多いと言われている^{1,2)}。

医薬品添付文書情報や安全性情報、副作用が疑われる症例報告に関する情報あるいは各種疾病の治療ガイドラインなどの定型的な情報はインターネットを介したホームページ等で比較的簡単且つ迅速に入手できる。

現在、医薬関係者が医薬品に関する情報を入手しようと思えば、瞬時にして大量の情報を入手することが可能となっている。

しかし、日常診療で必要となる患者個々の年齢、病態、症状などに合わせた最適な薬剤の選択基準(科学的根拠に基づいた公正で客観的な医薬品比較情報などが必要)、インフォームド・コンセントに必要な個別的な情報などはインターネットでは入手が難しく、個々に得られた情報を加工するためかなりの時間を要することが考えられる。医師が忙しい診療活動の合間に、必要な情報の加工を行う時間を確保することは容易ではない。

さらに、インターネットを介した情報収集のネックになっている要因として、インターネットによる医薬品の情報提供環境が整備されてきている一方で、情報の受け手である医師側(特に開業医、診療所勤務医)において、インターネットや電子メールなどの導入が必ずしも十分進んでいないということが指摘されている²⁾。

このような個別的な情報は、当該医薬品を有する製薬企業では比較的容易に作成することが可能である。

こうしてくると、MRが医薬情報の担い手として期待される役割は自ずと明確になってくる。

5 . MRという特性を活かした医薬情報活動

MRは、医療用医薬品の適正な使用と普及を目的として医薬関係者と面接し、医薬品の品質・有効性・安全性などに関する情報の提供・収集・伝達を行うことを主な業務としているが、医薬関係者からの期待(ニーズ)に対して的確に対応することが求められている。したがって、MRは、医薬関係者のニーズを的確に把握することに努め、迅速に対応することが肝要である。

IT時代の大量に情報が氾濫する中であって、MRは対面による双方向性のきめ細かい情報交換ができる立場にあることを認識し、スピードと正確性では勝るが一方向的であるインターネットなどの情報媒体とコミュニケーターとしてのMRの役割を明確に区分けしたきめ細かい情報活動に専念すべきである。

医薬関係者は、MRときめ細かい情報交換ができる関係になると、自ら情報を取りに行かなくても必然的に必要な情報が入ってくるようになる。このような情報の入手には時間も費用も殆どかかることはない(MRとの面談に要する時間は必要であるが)ので、医薬関係者にとっては効率的で有効な情報収集手段となる。

MRは、医薬関係者とこのような関係構築のため、まず、信頼関係を築くことに努め、さらに信頼関係を強化するための情報活動を継続していくことが大切である。

6. 患者のメリットに焦点を当てた医薬品情報

医薬関係者の求めに応じて個別に加工する情報は、科学的根拠に基づいた公正で客観的なものでなければならず、自社中心の都合のよい情報であってはならない（医療用医薬品プロモーションコードでもそのことが規定されている）。仮に、これに背くような情報提供を行えば、直ちに医薬関係者から信頼を失うことになり、自社医薬品の普及の実現はおろか、業績の低下まできたすことは火を見るより明らかである。

MRは、医療の最終消費者である患者を真の顧客として考え、患者のメリットとなる情報活動（医薬関係者を介して）を行うべきである（顧客満足の実現）。具体的には、患者の年齢、病態、症状、経済状況等を考慮して、医薬関係者が患者に最適な薬剤を適用できる（患者が選択できる）情報の提供、収集、伝達活動である。

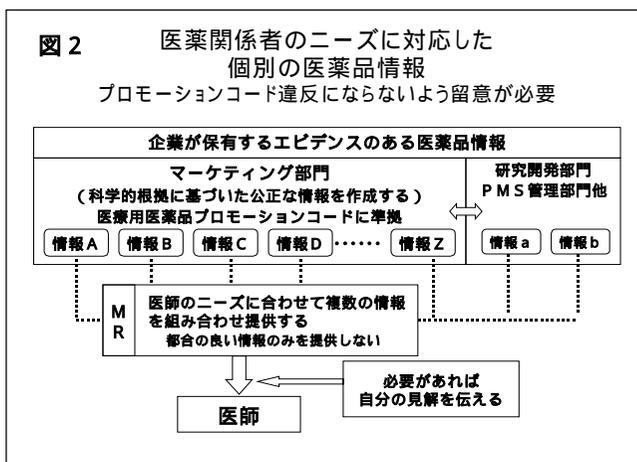
7. 定型的情報の提供から個別情報活動へ

医薬関係者は、使用する医薬品の適応症、用法・用量、使用上の注意などについては、手元にある添付文書やインターネットを介した添付文書情報などから必要に応じて情報を入手することができる。これらの情報は、定型的情報であり、スピードという点においてMRはおよびもつかない。MRがこのような定型的情報のみを持って繰り返し医薬関係者と面談しても、医薬関係者のニーズを満たすことはできない。

医薬関係者は、日常抱えている診療に関するさまざまな課題を解決したいと考えている（ニーズ）。MRは、医薬関係者の個別なニーズに対応した医薬情報活動（個別にまとめられた情報）を行うことが必要であり、これらの情報は医薬関係者にとって付加価値の高い情報となる（図2）。

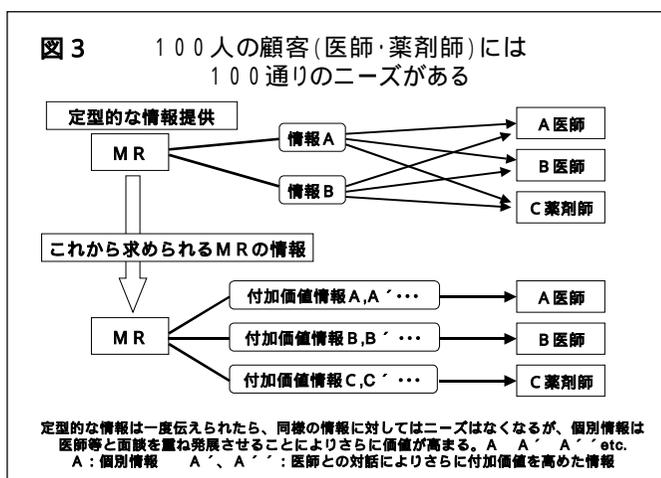
製薬企業は、自社で開発あるいは販売している医薬品についてはどこよりも多く情報を保有しているはずであり、関連する情報についても海外を含めて常に情報収集に努めているので、医薬関係者の求めに応じた情報の対応は、十分に可能であると考えられる。

MRは、社内外にあるエビデンスのある膨大な情報の中から医薬関係者のニーズにあった情報を探し出し、医薬関係者に提供する。複数の情報をまとめて加工する必要がある場合には、社内の関係部署にその資料を提示し、薬事法あるいは業界関連規範に違反していないか確認することが必要である。MR個人で対応が難しい場合は、社内の情報作成部門に依頼する。この場合であっても医療用医薬品プロモーションコードに則った情報作成が必要なことは言うまでもない。



このような個別情報を提供するにあたっては、単に提供するにとどまらず、面談している医薬関係者個々の状況を把握しているMRの立場から、個人的な見解を伝えることも大切ではないかと考える。このアドバイスが的確であった場合は、さらに医薬関係者の信頼を得ることにつながるのではないかと。

医薬関係者は、それぞれに異なった課題を抱えている。したがって、定型的な情報では、医薬関係者のニーズを満たすには十分でなく、それらの情報は繰り返し使用できない。MRは、医療関係者個々のニーズに合わせた（付加価値をつけた）情報提供に努めることが重要であり、これらの情報は医薬関係者との対話をもとにさらに発展させていくことにより、医薬関係者の満足を得、ひいては信頼を高めていくことになると考える（図3）。



おわりに

MR認定制度が導入されてから7年が経過した。現在、MR認定試験に合格したMR約52,000人が、医療機関を訪問して活動を行っている。MR認定制度導入後においては、それ以前に比べてMR活動は向上したという評価がある一方、医療機関における訪問規制もいまだに厳しいものがある。これら訪問規制を行っている理由のひとつに、「MRが提供する情報は売り込みたいがための情報で信頼がおけず、診療に役立たないためMRと面談するのは時間の無駄」とする意見が少なくない。

MRが、これら医薬関係者の指摘を真摯に受け止め、医薬関係者の期待に応える情報活動に専念し、薬物治療のパートナーとして評価され信頼を受けられるようになることを切に希望する。

参考文献

- 1) (財) 医薬情報担当者教育センター：MR活動に関する医療関係者の意識調査，2004年
- 2) 平成13年度厚生科学研究：情報技術時代における医薬品の適正使用に資する安全性情報の効果的な医療機関への提供及び医療機関での活用に関する研究、総括報告書，2001年

お知らせ

『日本の医薬品 構造式集 2005 (検索 CD-ROM 付き)』 発刊

12月中旬に『日本の医薬品 構造式集 2005』を発行の予定です。構造式は、薬剤師、研究者、薬系大学生などの皆様にとっては非常に大きな不可欠な情報であり、昨年は「日本医薬品構造式集 2004」として発行いたしました。今回、改題し、内容を充実させ、また利便性を高めるために CD-ROM を付録として付けて発行することとなりました。詳細は次のとおりです。

内 容：国内で販売されている医療用医薬品のうち、一部の高分子製剤、低分子製剤などを除く約 1,300 成分の構造式を収載。各成分には構造式のほか、一般名・化学名・薬効分類・適応・CAS Registry number・分子量・分子式を記載。

索 引：五十音（和文）とアルファベットの 2 種類。五十音索引では JAPIC 会員企業の製品名（約 3,800 件）による検索が可能。

CD-ROM：より詳細な情報を収載した検索 CD-ROM を付録として添付。複数の薬剤の構造式を同時に 1 画面に表示することができ、同一薬効群や類似作用をもつ医薬品などの構造式の違いを比較検証が可能。

価格：2,940 円（税込み）

問合せ・申込み先：事務局 業務担当 TEL.03-5466-1812

（事務局業務担当 TEL.03-5466-1812）

「*JAPIC J*」 ジャピックジャーナル No.2 発行しました

「*JAPIC J*」第 2 号を作成し既に会員の皆様にお送りしましたので、ご利用いただきたいと存じます。「*JAPIC J*」は医薬品情報に関する学術資料的に価値の高いまとめた内容として意義のある冊子を目指しておりますが、まだまだ未熟です。本号は 5 月の創刊号に続いての第 2 号です。「改正薬事法と GVP・GQP」、「抗がん剤の併用療法に関する話題」など薬事関連のタイムリーな話題や、「ホームページで海外医薬品の製品情報を探す方法」など日常業務で知っておくと役立つ情報を掲載いたしました。どうぞご活用下さい。

本誌をご希望の方には無料でお送りしますので、追加ご希望の場合は JAPIC 事務局業務担当までご連絡ください。お手数とは存じますが、同封のアンケート用紙にご記入の上、FAX でお送り下さいますようお願い申し上げます。今後の改善に役立てていきたいと考えております。

（事務局業務担当 TEL.03-5466-1812 / FAX.03-5466-1814）

『医療薬 日本医薬品集 2005年版 追補』発行のお知らせ

この度、『医療薬 日本医薬品集 2005年版追補〔抗菌薬再評価結果該当成分〕』を発行いたします。本冊子は、平成16年9月30日通知の医療用医薬品再評価結果〔平成16年度（その3）〕及び関連通知に基づくもので、対象成分191成分における適応症名の変更等、大変広範囲にわたる変更のため、2004年10月発刊の『医療薬日本医薬品集 2005年版（第28版）』では添付文書入手時期の都合上、掲載できなかった部分を補完する目的で作成いたしました。

本書を希望される方は、『医療薬日本医薬品集 2005年版（第28版）』添付ハガキにてお申し込み下さい。2004年12月下旬以降順次発送いたします。収録内容は次のとおりです。

対象医薬品と資料

- ・対象医薬品：平成16年9月30日通知の医療用医薬品再評価結果〔平成16年度（その3）〕及び関連通知で指定された191成分のうち、当センターで添付文書などの資料を入手している医療用医薬品175項目
- ・資料：平成16年11月11日現在、当センターで入手している添付文書、厚生労働省から発表された「再評価結果」等

内容

- ・索引：五十音索引（欧文名も記載）を収載
- ・本文：前記資料を基に作成した最新医療薬添付文書情報のうち、製品情報及び承認事項を抜粋したものを成分別に記載
- ・付録：今回の再評価の全体像をつかめる“抗菌薬再評価について（概要）”及び当該通知より抜粋した“適応菌種の表示記載方法”、“適応症の表示記載方法”を収載
- ・体裁：B5判・約100ページ（予定）

なお、内容についての問い合わせは当センターに、発送状況などのお問い合わせは株式会社 販売部（TEL.03-3265-7751）までよろしくお願い申し上げます。

（事業部門添付文書情報担当 TEL.03-5466-1825）

休業のお知らせ

誠に勝手ながら、下記の通り休業とさせていただきます。
ご了承頂きますようお願い申し上げます。

創立記念日休業：平成16年12月1日（水）

年末年始休業：平成16年12月29日（水）～平成17年1月4日（火）



「日本医薬文献抄録集」「医薬品副作用文献情報集（ADVISE）」

「医薬品副作用文献速報」廃刊について

JAPICDOC の冊子体版である「日本医薬文献抄録集」、ADVISE の冊子体版である「医薬品副作用文献情報集（ADVISE）」および「医薬品副作用文献速報」は、会員の皆様へ定期的にお届けして参りました。

しかし、時代の流れにより、「**iyakuSearch**」、「JAPICDOC」、「ADVISE」などのデータベースで入手または閲覧可能となり、冊子体としてご提供すること自体に再検討が必要となって参りました。会員の皆様をお願いいたしましたご利用についてのアンケート結果ならびにユーザ会などにおけるご意見からも冊子体での役割は既に終了したと思われる見解が出ております。つきましては、誠に勝手ではございますが「日本医薬文献抄録集」は 2005 年 2 月発行（2004 年シリーズ版（12）年間索引）、「医薬品副作用文献情報集（ADVISE）」は 2005 年 3 月発行（2004〔II〕）、「医薬品副作用文献速報」は 2005 年 2 月発行分をもちまして廃刊させていただきます。よろしくお願い申し上げます。

なお、「JAPICDOC」は日本電子計算（株）（JIP）の「e-infoStream」および科学技術振興機構（JST）の「JOIS」で、「ADVISE」は日本電子計算（株）（JIP）の「e-infoStream」で引き続きご利用いただけます。また、医薬品副作用文献速報の内容は「JAPICDOC」、「ADVISE」さらに本年 10 月からサービスを開始いたしました JAPIC 独自のデータベース「**iyakuSearch**」に収録されております。

「**iyakuSearch**」のコンテンツの一つである“医薬文献情報”は「JAPICDOC」と同じ内容で 1996 年から収録しております。会員の皆様には 無料 でご利用いただけますのでこの機会に是非ご利用賜りますようお願い申し上げます。

（事業部門医薬文献情報担当 TEL.03-5466-1823）



平成 16 年度第 1 回 JASDI フォーラム開催のご案内

「21 世紀のくすりの研究開発と医薬品情報」

日本医薬品情報学会と共催で第 1 回フォーラムを開催いたします。

JAPIC 会員は参加費が割引となっております。

多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

主 催：日本医薬品情報学会（www.jasdi.jp） 共 催：（財）日本医薬情報センター

日 時：平成 16 年 12 月 14 日（火）13：00～17：00

場 所：日本薬学会館長井記念館 長井記念ホール

（東京都渋谷区渋谷 2-12-15 TEL:03-3406-3326）

13:00～13:10	1. はじめに 日本医薬品情報学会 会長	山崎 幹夫
13:10～14:00	2. 講演 これからの薬物相互作用を考える - ファーマコゲノムクスからの視点 - 東京工業大学大学院生命理工学研究所	石川 智久
14:00～14:50	くすりの研究開発と個人情報 国立医薬品食品衛生研究所	増井 徹
14:50～15:10	休憩	
15:10～16:00	市販後情報からの育薬 福井大学医学部付属病院薬剤部	政田 幹夫
16:00～16:50	ゲノム創薬の光と陰 日経BP社先端技術情報センター	宮田 満
17:00～	懇親会（無料） 日本薬学会館長井記念館 長井記念ホールロビー	

申込方法：氏名、所属、連絡先（住所、TEL、FAX、E-mail）を

e-mail：jasdi-forum1@jasdi.jp宛てに送信してください。

複数名の場合も個別にお申し込みください。

定 員：150 名

参加申込締切：平成 16 年 12 月 9 日（木）

参加費：日本医薬品情報学会、（財）日本医薬情報センター

会員 3,000 円 非会員 5,000 円 *当日会場でお支払い下さい。

（事務局業務担当 TEL.03-5466-1812）

トピックス

iyakuSearch 添付文書情報提供開始

<http://database.japic.or.jp>

iyakuSearch の提供を開始し、2 ヶ月が過ぎました。10 月送信分からのデータしか収録されていなかった規制措置情報（JDM）も、11 月末には本年 2 月まで遡った情報を収録し、また、準備中となっておりました「添付文書情報」は、11 月 15 日から提供を開始いたしました。

これにより、医薬品の安全性に係わる外国の規制措置情報から日本における添付文書での確認、文献・学会情報での確認等、幅広い情報の利用が可能になりました。

今年度予定しておりました iyakuSearch のコンテンツはこれで全て整いました。データの更新状況はマイページにお示ししておりますのでご確認ください。文献・学会情報は 1 回 / 月、添付文書情報は 2 回 / 月、JDM は随時（JAPIC 業務日は毎日）の更新となっています。

検索の機能等はまだまだ改良しなければならない部分もあり、またユーザーの皆様からも色々ご意見をいただき既に反映させていただいたものもございます。これからも iyakuSearch のご支援をよろしく願いいたします。

さて、会員の皆様方には、iyakuSearch のご登録はお済でしょうか。上記 URL からご登録の上、ご利用くださいますようお願いいたします。

< 添付文書情報の概要 >

提供開始いたしました添付文書情報は、医薬品名（商品名、一般名）および会社名（製造、輸入、販売、発売会社）からデータベースを検索し、添付文書の PDF をご覧いただける仕様になっています。収録するデータは、医療用医薬品約 17,000 品目の添付文書（PDF 約 13,000 枚）となっています。検索画面、検索結果は以下の通りです。

医薬品名、会社名共にカナ、漢字、アルファベットで検索でき、部分一致で検索します。

検索結果は添付文書毎に表示され、必要な情報を選択すると添付文書の PDF を表示します。

今回は、医療用医薬品の新鮮な添付文書をご提供することを目的に開発いたしました。文献・学会、規制措置情報とあわせてご利用ください。

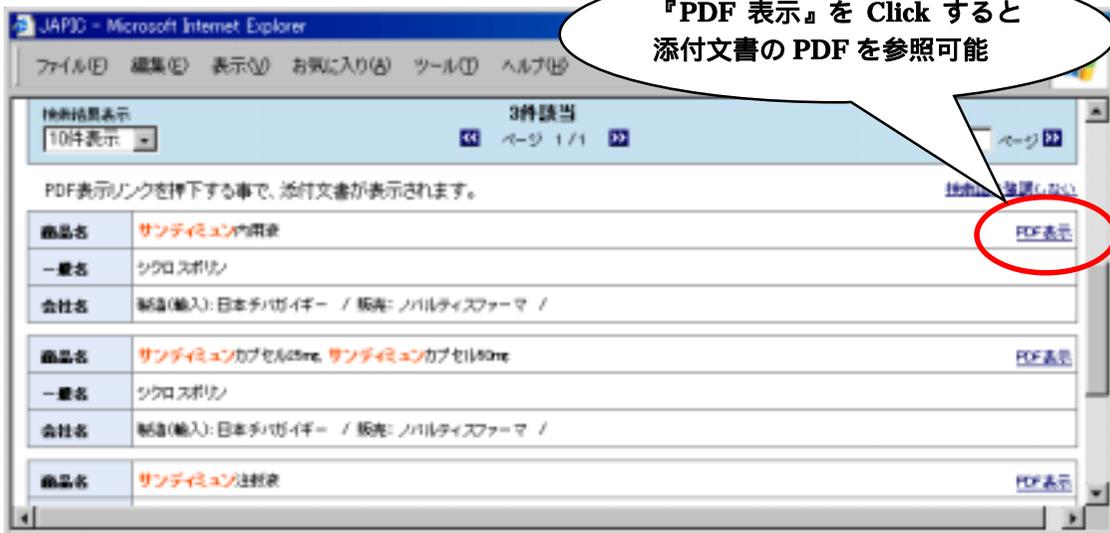
（事業部門技術渉外担当 TEL.03-5466-1832）

< 添付文書情報 検索画面例 >

(例) 「サンディミュン」で検索を行う場合



< 検索結果一覧 >



個人情報保護への取組み

近年、IT化の進展に伴い、大量の個人情報が処理されています。こうした個人情報の取扱は、今後ますます拡大していくと予想されますが、一方、顧客情報の流出や個人情報の売買事件が多発し不安も高まっています。こうした状況を踏まえ、誰もが安心してIT社会の便益を享受するための制度的基盤として平成15年5月に「個人情報の保護に関する法律」が成立し、平成17年4月から全面施行となります。これを受け、政府は、事業者等の取組みを促進するために、プライバシーポリシーの策定公表 安全管理のための責任体制の整備 教育研修等を通じて個人情報保護意識の徹底を主な柱とした「個人情報の保護に関する基本方針」を平成16年4月に閣議決定しました。

JAPIC ではこれまで保有している役職員や顧客の個人情報の取扱について、閣議決定に沿ってルール化する必要性が生じていたこと、さらに、本年10月1日から提供を開始しました医薬品情報データベース「iyakuSearch」では会員の方は当然ですが会員以外の方に対してもご利用いただくこととなり、個人情報保護の観点から早急に対応する必要が生じました。このような状況を受け、今般、JAPIC の具体策として、「個人情報保護基本方針」、「個人情報管理規定」、「個人情報取扱細則」及び「個人情報保護体制」を定め10月1日から施行しました。

「個人情報保護基本方針」は JAPIC の個人情報に関する考え方や方針に関する宣言を対外的に公表することにより社会の信頼を得ること、また、「個人情報管理規定」及び「個人情報取扱細則」は「個人情報保護基本方針」を受け、JAPIC が収集・保存・利用・提供する個人情報について、当該情報の収集及び利用を適切に行うとともに、当該情報を安全かつ最新の状態で保管し、適切に廃棄して、個人及び個人情報のセキュリティを確保することを目的としています。「個人情報保護体制」はこれらの規定等に基づき、JAPIC の保護の対象となる個人情報を部門毎に整理しそれぞれ個人情報管理者、個人情報取扱者を置くことで責任体制を明確にしました。

このようにルール化して責任体制や監査制度を策定しましたが、ルール化しても個人情報を取り扱う派遣職員、短時間労働者を含め全ての職員が個人情報保護に対する自覚を持ち対応していくことが基本的に大事なことです。そのためには常時教育を徹底して行うことが先決であると考えています。今後施行に際していろいろな問題が出てくると予想されますが、規定等はその都度見直す必要があります。

公益法人である JAPIC は、透明性を確保する観点から業務に関する資料の情報公開を求められており、今後個人情報保護との整合性を図りながら、プライバシーマーク制度の活用を含め全力で個人情報保護に取り組んでまいります。

(事務局総務担当 TEL.03-5466-1811)



韓国保健社会研究院(Korea Institute for Health and Social Affairs)来訪

2004年10月29日に韓国保健社会研究院の研究員の方が2名来訪されました。日本のPMSの現状とJAPICの組織と役割に深い関心を持たれての来訪でした。概要説明のあとの質疑応答では安全性情報の加工、評価、提供の仕組みについて具体的な質問がなされました。安全性情報の提供について韓国の関心度の高さに注目させられました。

Ms. Se Jung Park (Department of Health Care Researcher)

Ms. Youngchul Chung (Research Fellow)

< 通訳 : Ms. Hyunjung Lee (東京大学大学院医学系研究科) >

(事務局業務担当 TEL.03-5466-1812)

「第2回職員研修 - 講演会」開催の報告

JAPICでは、職員の研修の目的で10月29日(金)16:00~17:00、当センターの3階会議室に久田保彦氏をお招きして、本年度第2回目の講演会を開催しました。

久田氏は2002年まで山之内製薬株式会社に勤務されておられましたが、ご在職中の1994年からは製品情報センターの所長として、医療従事者・医療消費者への医薬品情報の提供活動に従事され、さらに日本製薬工業協会くすり相談対応検討会、東京医薬品工業協会くすり相談委員会、日本製薬団体連合会消費者対応部会・同情報提供検討部会の要職を努められるなど、業界活動におかれても活躍されました。また2000年から2002年までの2年間、当センターの理事としてJAPICの業務に多大なお力添えをいただきました。現在は株式会社星薬局取締役役として、さらに3つの看護専門学校(京都府医師会看護専門学校、関西看護専門学校、京都府看護専修学校)の非常勤講師として、生理学、薬理学、病理学などを教えるなどご活躍になられています。

そこで今回豊富なご経験のなかから「医療現場における情報活動について」と題して講演をしていただきました。調剤薬局薬剤師の情報活動の現況として、薬剤師は日常どのような医薬品情報をどのように活用しているか、医薬品情報を必要とする場面はどのような時か、患者さんへの服薬指導の実態、看護師の教育などについて、医療現場での具体例を示してユーモアたっぷりに分かり易くご講演いただきました。

今後できるだけ幅広い分野から講師をお招きし、知識や知恵を与えていただき、会員の皆様に真に役立つ情報提供が行えるよう、業務の改善や発展に努めたいと考えております。

(開発企画担当 TEL.03-5466-1837)



図書館だより No.174

◀ 新着資料案内 - 平成 16 年 10 月 12 日 ~ 平成 16 年 11 月 10 日受け入れ ▶

この情報は JAPIC ホームページ <<http://www.japic.or.jp>>でもご覧頂けます。

お問い合わせは図書館までお願いします。複写をご希望の方は所定の申込用紙でお申し込み下さい。

電話番号 03-5466-1827 Fax No. 03-5466-1818

配列は書名のアルファベット順

書名	著編者名	出版社名	出版年月	ページ	定価
10年先を読む研究開発投資のための医薬品の市場・売上予測のノウハウ	津谷喜一郎 他	技術情報協会	2004年 9月	188p	¥78,750
2004-5年版 薬事関係法規及び薬事関係制度 要点と問題	薬事衛生研究会	薬事日報社	2004年 10月	359p	¥2,520
ADVICE 医薬品副作用文献情報集 <抄録集編> 2004 [I]	日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2004年 9月	559p	¥26,250
ADVICE 医薬品副作用文献情報集 <薬効別副作用一覧編> 2004 [I]	日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2004年 9月	721p	
English-Persian Dictionary.(Hippocrene Standard Dictionary)	Haim, S	Hippocrene Books, Inc.	1993年	700p	¥3,310
European pharmacopoeia 5th edition Supplement 5.1	Council of Europe	Council of Europe	2004年 9月	305p	¥16,080
『EP』の追補で、monographsでは新規27品目のほか収載					
Farsi-English, English-Farsi(Persian) Concise Dictionary	Miandji A.M. ed.	Hippocrene Books, Inc.	2003年	413p	¥2,150
平成17年版 職員録 上巻	国立印刷局	政府刊行物東京サービス ・ステーション	2004年 11月	2,593p	¥10,500
平成17年版 職員録 下巻	国立印刷局	政府刊行物東京サービス ・ステーション	2004年 11月	2,652p	¥10,500
平成17年版 薬事法令ハンドブック - 薬事法、薬事法施行令、薬事法 施行規則	薬事日報社		2004年 10月	266p	¥1,260
医療薬日本医薬品集 2005 (第28版)	日本医薬情報センター	じほう	2004年 10月	3,206p	¥23,500
成分別に2,009項目、うち新規21項目収載					
医療用医薬品品質情報集 (平成16年10月版) 付録 日本薬局方外医薬品規格第三部	厚生労働省医薬食品局審査管理課	厚生労働省医薬食品局	2004年 10月	183p	

書名	著編者名	出版社名	出版年月	ページ	定価
医療用医薬品識別ハンドブック 2005	医薬情報研究所	じほう	2004年 10月	562p	¥5,250
医薬品の臨床試験とCRC 増補版 これからの創薬と育薬のために	中野重行 他	薬事日報社	2004年 9月	28p	¥5,250
医薬品製造指針 追補2004	薬事審査研究会 監修	じほう	2004年 10月	634p	¥7,350
情報サービスと著作権	吉田正夫 監修	情報サービス産業協会	2004年 9月	55p	¥400
科学技術英和大辞典 第2版	富井 篤	オーム社	2004年 9月	2,454p	¥57,750
希少疾病用医薬品ハンドブック2003 - オーファンドラッグ指定制度等の概要	オーファンドラッグ研究会	じほう	2003年 12月	201p	¥4,500
国民衛生の動向～厚生の指標・臨時増刊～ 2004	厚生統計協会	厚生統計協会	2004年 8月	488p	¥2,095
呼吸機能検査ガイドライン - スパイロメトリー、フロボリューム曲線、肺拡散能力	日本呼吸器学会肺生理専門委員会	日本呼吸器学会	2004年 9月	56p	非売品
抗菌薬の再評価結果及び効能・効果読替えに関するご案内	日本製薬団体連合会再評価委員会	日本製薬団体連合会	2004年 10月	269p	
厚生労働省職員録 平成16年版	労働新聞社出版部	労働新聞社	2004年 9月	637p	¥3,360
向精神薬治療ガイドライン 改訂増補版	医薬品・治療研究会 他訳	医薬ビジランスセンター	2004年 8月	347p	¥3,780
吸入ステロイド薬 服薬指導のためのQ&A	大森 栄	フジメディカル出版	2004年 11月	94p	¥2,415
Martindale:The Complete Drug Reference 34th ed. Sean C Sweetman ed. イギリス薬剤師会の手による医薬品情報集で、220品目を追加、約110品目を削除		Pharmaceutical Press(GBR)	2004年 10月	2,756	¥72,480
日本医薬品集DB 2004年10月版(2004年10月データ)	日本医薬情報センター・じほう	じほう	2004年 10月		¥35,000
『医療薬日本医薬品集2005』『一般薬日本医薬品集2004-2005』をカバーしたCD-ROM					
日経DIクイズ - 服薬指導・実践編 - 6	日経ドラッグインフォメーション	日経B P社	2004年 10月	151p	¥4,800
日経パソコン用語事典2005年版	日経パソコン	日経B P社	2004年 10月	1,198p	¥2,730

書名	著編者名	出版社名	出版年月	ページ	定価
Persian-English Dictionary.(Hippocrene Standard Dictionary)	Haim, S	Hippocrene Books, Inc.	1993年	736p	¥3,310
SBR 新医薬品再審査概要 No.3 塩酸ピルジカイニド[サンリズムカプセル25mg、50mg]	日本公定書協会	エルゼビア・サイエンス 株式会社ミクス	1999年 12月	70p	¥1,500
SBR 新医薬品再審査概要 No.4 コハク酸シベンゾリン[シベノール錠50mg、100mg]	日本公定書協会	エルゼビア・サイエンス 株式会社ミクス	1999年 12月	70p	¥1,500
SBR 新医薬品再審査概要 No.5 塩酸プロパフェノン[プロノン錠100mg、150mg]	日本公定書協会	エルゼビア・サイエンス 株式会社ミクス	1999年 12月	64p	¥1,500
製薬関係通知集 追補2004	じほう		2004年 10月	733p	¥7,560
新医薬品として承認された医薬品について（平成16年10月22日事務連絡）	厚生労働省医薬食品局審査管理課	厚生労働省医薬食品局	2004年 10月	2p	
新医薬品として承認された医薬品について（平成16年11月5日事務連絡）	厚生労働省医薬食品局審査管理課	厚生労働省医薬食品局	2004年 11月	2p	
新薬臨床評価ガイドライン 2004	日本公定書協会	薬事日報社	2004年 9月	851p	¥7,665
図解 2002年改正薬事法・血液法の概要	薬事研究会	じほう	2002年 9月	270p	¥3,675

その他資料・寄贈等

1. 血液事業関係資料集 平成 15 年度版 / 血液製剤調査機構 / 132p / 2004
2. 国際協力機構年報 2004 (資料編 CD-ROM) / 国際協力機構 / 221p / 2004
3. 小児の食物アレルギー / 日本小児アレルギー学会・食物アレルギー委員会 / 34p / 2004
4. (財)てんかん治療研究振興財団研究年報 第 16 集 / (財)てんかん治療研究振興財団 / 158p / 2004
5. 長崎大学熱帯医学研究所共同研究報告集 平成 15 年度 / 長崎大学熱帯医学研究所 / 135p / 2004



月間のうごき

今年は自然災害に見舞われ続けています。8月から9月にかけては大型台風が次々と日本列島を襲いました。この中で激甚災害に指定されたのはなんと3つ、年内には台風23号も指定される予定と報じられていました。台風の被害から抜け出せないうちに10月23日にはマグニチュード6.8の地震が新潟県中越地方を襲いました。東京でもかなり長い揺れを繰り返し感じ、ちょうど食事時で何度もガス栓を閉めにいったりしたものです。地震から早一月が過ぎましたが、被災地の方々は冬を迎えて大変な思いをされていることと伺います。心からお見舞い申し上げます。

皮肉なことに中越地震により「エコノミークラス症候群」という言葉が広く認知されました。JAPICで提供しております「iyakuSearch」の中の「医薬文献情報」および「JAPICDOC」にこの病名が最初に出てくるのは1998年です。日本呼吸器学会雑誌1998年6月号に掲載されております愛知医科大学 佐藤 温先生の「エコノミークラス症候群と考えられた肺血栓塞栓症の1例」という論文が最初です。この参考文献をたどりますと1986年のSarvesvaranの[Air traveller's disease]そして1988年のVoorhoeveらの「Economy Class Syndrome」に行き着き、外国では随分前よりこの症候群が報告されていたのがわかります。

さて、JAPICでは11月は重要な会議が2つありました。11月9日の企画運営会議では主に平成17年度からはじまります第二期中期3カ年計画および来年度事業計画等について企画運営会議委員の方々にご議論して頂きました。また、25日にはこの結果をふまえて理事会で審議されます。

ユーザーの皆様のお手元にこのJAPICNEWSが届く直前の26日には「第6回JAPICユーザ会」が大阪で開催されます。今回はあいにく名古屋で開催されます第24回医療情報学連合大会と重なってしまいましたが、特別講演として武庫川女子大学薬学部 松山賢治先生より「臨床マインドから開発する薬」と題してご講演いただくことになっております。また、毎回ご好評いただいておりますJAPICサービスの活用事例ですが、10月よりリリースいたしました「iyakuSearch」の活用事例を武庫川女子大学臨床薬学教育センターの西方真弓先生から、JAPIC全般の情報の活用事例を沢井製薬信頼性保証部の浅田英文先生よりご紹介いただく予定です。ぜひご参加いただければと思います。

はやいもので今年もあと一月というところまでできてしまいました。医薬文献情報の新規採択誌の検討も含めて来年度への準備が始まっています。来年は紀宮様のご婚約にあやかって明るいニュースの多い年であってほしいと思います。同時に「iyakuSearch」がもっともっと利用されるようになってほしい…しかしこれは願いだけではだめで第二期中期3カ年計画の大目標にもあるとおり、ユーザーに信頼される情報、使いやすい情報を作っていかなければなりません。

(医薬文献情報担当(国内)部長 上原 恵子)

11月の情報提供一覧

- ・平成16年11月1日から11月30日の期間に提供しました情報は次の通りです。
- ・出版物がお手許に届いていない場合は、
当センター事務局業務担当（TEL.03-5466-1812）にお問い合わせ下さい。

情報提供一覧	発行日等
<出版物等>	
1. 「医薬関連情報」11月号	11月26日
2. 「Regulations View」No.111	11月26日
3. 「JAPIC CONTENTS」No.1630～1634	毎週月曜日
4. 「日本医薬文献抄録集」2004シリーズ版（9）	11月末予定
5. 「医薬品副作用文献速報」12月号	11月末予定
6. 「JAPICJ」ジャピック・ジャーナル No.2 2004.OCT	11月19日
7. 「JAPIC NEWS」No.248	11月26日
<速報サービス>	
1. 「医薬関連情報 速報 FAX サービス」No.461～464	毎週
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス（JAPIC-Q サービス）」	毎週
3. 「JAPIC-Q Plus サービス」	毎月第一水曜日
4. 「外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス（JAPIC Daily Mail）」No.854～873	毎日
5. 「感染症情報（JAPIC Daily Mail Plus）」No.64～68	毎週月曜日
6. 「PubMed 代行検索サービス」	毎月第一水曜日

データベース一覧	更新日
iyakuSearch < http://database.japic.or.jp/ >	
1. 医薬文献情報	11月15日
2. 学会演題情報	11月15日
3. 添付文書情報	11月15日
4. 規制措置情報	毎日
<JIP e-InfoStream から提供> メンテナンス状況は JIP ホームページ (https://e-infostream.com/) でもご覧いただけます。	
1. 「JAPICDOC 速報版 (日本医薬文献抄録速報版)」	11月10日
2. 「JAPICDOC (日本医薬文献抄録)」	11月10日
3. 「ADVISE (医薬品副作用文献情報)」	11月10日
4. 「MMPLAN (学会開催予定)」	11月15日
5. 「SOCIE (医薬関連学会演題情報)」	11月10日
6. 「NewPINS (添付文書情報)」(月2回更新)	11月1日 11月15日
7. 「SHOUNIN (承認品目情報)」	11月8日
<JST JOIS から提供>	
「JAPICDOC (日本医薬文献抄録)」	11月中旬

当センターが提供する情報を使用する場合は、著作権の問題がありますので、その都度事前に当センター事務局業務担当 (TEL.03-5466-1812) を通じて許諾を得て下さい。

===== 財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC)
(<http://www.japic.or.jp/>)

禁無断転載
JAPIC NEWS 1984.4.27 No.1 発行
2004.11.26(毎月 1 回最終金曜日)発行

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-12-15
長井記念館 3 階
TEL 03(5466)1811 FAX 03(5466)1814